

大相撲力士

二代目 四ツ車大八

その1



【四ツ車大八プロフィール】

江戸時代の大相撲力士。安政元年（一七七二年）五城目町下夕町に生まれる。最高位幕内前頭三枚目。本名荒川栄蔵。文化六年（一八〇九年）三十七歳で鬼籍。墓所は江東区所在の印速寺。力士としての輝かしい成績は残せなかったが、江戸時代の【め組の喧嘩】で有名。現在も歌舞伎などで演じられている江戸火消し「め組」と力士の喧嘩。勇猛果敢な正義の味方、力士のヒーローが五城目町出身の四ツ車大八。

【五城目町で生まれ育った時代】

五十目村下夕町（現在の夕町）で生まれる。母親は福祿寿で働いていた。父親はあめつくりの仕事をしていた。栄蔵は人並みはずれて大きな体で十五歳から福祿寿で働くようになった。五城目町は草相撲が盛んでした。酒屋若集達と相撲をとると、その強さが引き立ちました。草相撲の花形力士となりました。頑強な体格が巡業中の力士の目にとまり、薦められ江戸に出て初代柏戸宗五郎に弟子入りしました。最高位は前頭三枚目。この頃の有名な力士といえば、谷風、小野川、雷電です。ものすごく強かったそうです。ところが、四ツ車もこの力士たちに負けないほど有名な力士でした。

【喧嘩のヒーロー四ツ車大八】

大相撲の興業場所。現在の港区芝大門一丁目に所在する芝大神宮。大喧嘩、江戸の火消しと大相撲力士の舞台となった場所です。芝神明社。この付近担当の火消し、浜松町の辰五郎と宇田川町の長次郎が入場料を支払わないで、相撲見物に入ろうとしました。そこへ、四ツ車と同じ部屋の大蔵山が通りかかり、二人を外に出しました。問題はそれで終わったはずでしたが、あとで同じ境内で行われていた芝居見物に出かけた大蔵山と兄弟力士の藤ノ戸を辰五郎、長次郎たち「め組」の火消し達が見つけ、さんざん



次号(82号)その2に続く

殴ったり、蹴ったりしたのです。急を聞いた四ツ車は、大蔵山、藤ノ戸を助け出そうと、芝の喧嘩の現場へかけつけました。そして、元気で乱暴な火消し達の中に飛び込み、二人を助け出しました。さすがに幕内力士だけあって、群がる火消し達を相手に大活躍しました。三間梯子をふるって、立ち向かってくる火消し達を将棋倒しにしました。喧嘩を得意とした「め組」の者たちも四ツ車には歯が立ちませんでした。裁判では火消し達は有罪。四ツ車は無罪となりました。江戸の町の人々は大喜びです。日頃から威張りちらし、乱暴が多い火消し達を、こらしめてくれた四ツ車は、喧嘩のヒーローとして江戸っ子の人気者となりました。この喧嘩の物語が、現在も歌舞伎の芝居となつて語り継がれています。昨年十二月映画「め組の喧嘩」を鑑賞してきました。四ツ車大八になったつもりで観てきました。会員の方で興味ある方は歌舞伎芝居で公開される際は、是非ご覧になって下さい。